

ご挨拶

徳島大学整形外科同門会 会長 邊見達彦

2017年も残りわずかとなり、本格的な厳冬の季節に向かっていることを感じる今日この頃ですが同門の皆様はご健勝のこととお慶び申し上げます。

2017年は皆様にとってどのような一年でしたでしょうか。良かった方、来年に期待する方いろいろあったかと想像いたします。きたる2018年は戌年です。戌戌（つちのえいぬ）と言うらしいです。犬は安産と勤勉でコツコツと堅調な仕事ぶりが特徴です。同門会の皆様にとっても堅実に実績を残され良い戌年になることを願っております。

西良浩一教授は平成25年10月1日の教授就任後すでに4年を越えて5年目を迎えています。その功績は臨床に研究に国際交流に目覚ましいものがあります。大学医局も関連病院との関係性が良く元気です。私も会長として新春には5年目に入ります。今後の大学医局の学会開催などに少しでも貢献できればと考えております。

前回の国際交流基金に対しての皆様のご協力は誠にありがとうございました。おかげさまで大変ありがたい助けとなったようです。西良浩一教授と共に御礼申し上げます。さてこの資金も3年が経過し次の国際交流に向けてさらに新たな基金が必要になってきたようです。どうぞこの度もよろしく願い申し上げます。

今年は西良浩一教授の指導下多くの学会発表で優秀演題などの受賞をされていたのが印象に残っています。大学医局の先生や関連病院の先生の名前が数多く聞こえてきました。わたくし達鳴門病院の喜多先生も中四国整形外科学会で受賞され、私も、直接指導をされた寺井先生や西良浩一教授ともども喜んだものです。

今年の医局、関連病院の間での大きな出来事は平成29年10月1日に脊椎関節機能再建外科学の長町特任教授が高松市民病院副院長として赴任されたことです。長町先生は持ち前の突進力と温かい人柄で台湾でも西良浩一教授と共に姉

妹校作りに貢献され、今は国立台南成功大学 (National Cheng Kung University) と義守大学 (I-Shou University) の二大学との交流が盛んになっています。これからはアジアが大きく伸びる時代を迎えると思いますので期待は大きいです。そのあとの特任教授職には運動機能外科学の松浦准教授が就任されました。松浦准教授の後任の運動機能外科学准教授には酒井先生が特任准教授から就任され、酒井特任准教授の後任は徳島市民病院整形外科から千川隆志先生が大学に復帰され特任准教授に就任されています。

さらに平成29年11月1日には地域運動器・スポーツ医学寄附講座が新設されこの講座の特任准教授には吉野川医療センターから米津浩先生が就任されています。

医局から関連病院へ派遣された後も意欲をもって臨床・研究に実績を挙げた先生は再度大学で学ぶ時間や機会が与えられるのはとても素晴らしいことと考えます。このことで医局と関連病院との関係も密接になり現在の交流は一昔前よりさらに良好になっていると考えます。

特に教授と関連病院の中堅以下の若い先生方との関係性はさらに密接であろうと思います。

今後の学会開催予定については私の知る範囲では2018年には第44回日本整形外科学会スポーツ医学学会学術集会、2019年に第22回日本低侵襲脊椎外科学会 (JASMISS) が決まり、オリンピックのある2020年に The 38th Annual Meeting of the International Society for Minimal Intervention in Spinal Surgery (ISMISS 2020) が予定されています。

慶事ではこの秋に山本博司先生が瑞宝中綬章を受章されました。もちろん高知大学整形外科教授、日本整形外科学会理事長としての功績が大きいとは思いますが、瑞宝章の基準は国や地方公共団体での長年の継続した業務による功績ですので、徳島大学時代の医療・教育・研究も含まれると考えています。同門会に在籍されてもおりますので同門会員を代表してお祝いの言葉を申し上げます。

残念な出来事は今年、同門会員に何人か訃報があったことです。松森茂先生 (昭和29年入会)、萩森宏一先生 (昭和34年入会)、西川洋三先生 (昭和53年入会)、池田祐一先生 (昭和63年入会) が相次いでご逝去されました。誠に惜しまれます。どうか安らかにお眠りください。

来年はいよいよ医療、介護の診療報酬の同時改定の年になります。公私病院

の如何を問わず厳しい局面となりそうです。どうにかして乗り越えましょう。結びとなりましたが、これからさらに厳しい寒さを迎える年末・年始の季節になります。どうか会員の皆様もお身体には十分に気をつけられて楽しく幸せな新年をお迎えください。